

地域イベントに積極的に参加して 住民や異業種ともつながりを大切に

公益社団法人 世田谷工業振興協会
青年部会 部会長 千葉 寿典さん

世田谷区内の事業者をサポートして 工業と地域住民の共生に尽力

昭和63年に設立された「公益社団法人 世田谷工業振興協会（世工振）」は、世田谷区内で事業を行う法人、個人事業主を主な構成員として、世田谷区内の企業の健全育成と地域産業の振興を図り、地域社会の発展に寄与するための活動を行っています。「簡単に言うと、世田谷区内で工業を営んでいる方の集まりですね。大半は工業の方になりますが、実は私も情報成果物をつくる会社のプロデューサーをやっているように、Web会社や印刷会社など、工業とはちょっと違った業種の方も所属しています」。そう説明してくれたのは、世工振の青年部会で部会長を務める千葉寿典さん。「工業は、ひとり親方のような会社が多いので、世工振が社会保険労務士などのバックアップをして、会社の存続に関わるような相談にも応じています」。

世田谷区には池尻・経堂・船橋・桜新町の一部に準工業地域があり、食品加工や部品製造など、さまざまな工場が操業しています。準工業地域とは住宅と工場が共存する地域で、近年、工場の近くにマンションが建ち並ぶようになりました。「住民の暮らしと工場の操業がうまく共生していけるようにバックアップするのも世工振の役目になります。例えば、工場の近隣住民の子どもたちに工場見学をしてもらったり、地域住民と事業所の交流を深めるイベントを開催したり。準工業地域の住民の方々に、何をしている工場なのかを知っていただき、工場の存続に対して理解していただける活動を行うことで世工振の会員を支えています」と千葉さん。

さらに異業種の事業者とも交流会や情報交換などを行っていて、防災イベント『危機管理産業展2023』では、この異業種交流事業により世工振が製作した『災害時避難誘導塔(AE-TOWER)』が展示されました。ソーラーパワーで光る誘導塔で、世田谷公園・二子玉川公園・羽根木公園に設置され、災害時の目標物として地域社会に貢献しています。

子どもたちに『ものづくり』の おもしろさ、楽しさを伝えていく

世工振の中で地域社会と連携する活動を実行しているのが青年部会で。『せたがや産業フェスタ』では実行委員会に参画し、「木材(檜)の端材を使ったはしづくり」を行っています。「はしを作ることで子どもに『ものづくり』の楽しさを伝えて、



親御さんには世工振の名前を覚えていただくのが狙い。毎年開催しているので、『昨年もやりました』と覚えていて来てくれる子がいると嬉しくなりますね。その他にも『桜新町さくらまつり』や『せたがやふるさと区民まつり』などに積極的に参加して、世工振の活動をPRするブースを出しています。イベントを通して、地域住民の方々のコミュニケーションを図っているのです」と千葉さん。さらに工場見学や小学校への出張職場体験なども行っているそう。

「食物を腐りにくくするPH調整剤というものがコンビニのお菓子に入っていることとか、義肢装具士がパラリンピック選手の話をしたり、金属加工の会社の方が100分の1ミリのアルミホイルと1000分の1の厚さの違いを触らせて教えてくれたり。ものづくりに興味をもってもらい、さまざまな企業が近くにあることを理解してほしいですね」。

今後は、異業種間の横のつながり、新しい業種の事業者の加入を推進していくのが千葉さんの目標。「同じ業界の中だけだと持っている情報が偏りますが、異業種の方と交流すると新しい情報を得ることができるメリットがあって、今までにはない活動のしかたもでてくると考えています。『工業』にこだわらず、『ものづくり』をベースにすれば、Webデザイナーやイラストレーターなどのクリエイターも世工振に加入してもらえらと思います。これからは、クリエイターの方が参加したくなるような企画を考えていきたいですね」。



地域のイベントでは、世田谷工業振興協会の名称が入った袋を配って、まずは名前を覚えてもらい、興味をもった人にはパンフレットを渡している。

『せたがや産業フェスタ』では、木材(檜)の端材を用意して、子どもたちにはしを作ってもらおうワークショップを開催。大理石の端材でペン立てを作ったこともあり、今後も、子どもたちが楽しめる企画を考えていくそう。

公益社団法人 世田谷工業振興協会 | 太子堂2-16-7 世田谷産業プラザ2F
TEL : 03-3421-2863 <https://setagaya-ia.or.jp/>

